

14:1 知恵のある女は家を建て、愚かな女は自分の手でこれを壊す。  
 14:2 まっすぐ歩む者は【主】を恐れ、曲がった道を行く者は主を侮る。  
 14:3 愚か者の口には、高ぶりへのむち。知恵のある者の唇は自分を守る。  
 14:4 牛がいなければ飼葉桶はきれいだが、豊かな収穫は牛の力による。  
 14:5 真実な証人は偽りを言わない。偽りの証人は偽りを吹聴する。  
 14:6 嘲る者は知恵を求めても得られない。悟る者には知識を得るのは易しい。  
 14:7 愚かな者の前を離れ去れ。知識の唇は、そこに見出せない。  
 14:8 賢い人の知恵は自分の道をわかまえること。愚かな者の愚かさは欺きにある。  
 14:9 愚か者は罪の償いを嘲る。心の直ぐな人たちの間には恩寵がある。  
 14:10 心はその人自身の辛さを知っている。その喜びにほかの者はあずかれない。  
 14:11 悪しき者の家は滅ぼし尽くされ、心の直ぐな人の天幕は栄える。  
 14:12 人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。  
 14:13 笑うときにも心は痛み、その終わりには、喜びが悲しみとなる。  
 14:14 心の放埒な者は自分の道に満足する。善良な人は彼から離れる。  
 14:15 浅はかな者はどんなことばも信じるが、賢い人は自分の歩みを見極める。  
 14:16 知恵のある者は慎重で、悪を避けるが、愚かな者は怒りやすく、自信が強い。

自分は「知恵のある女」であるか、「主を恐れ」しているか、「高ぶり」がないか、自らを吟味しましょう。また「飼葉桶」をきれいに保つように、面倒なことをしないで済ませていないでしょうか。力を生んで成功するには、苦労や汚れ役が必要です。

働ける人は「吹聴する」ものです。信じる前に知恵を働かせましょう。また自分の立場を良くするために「嘲る」ように人を低めるような発言をしないように気を付けましょう。また相手が「愚か」であるか「賢い」人であるかを見極めることも大切です。現実を把握することで、より愛することもできます。

心が本人のことしか分らないものであることは、現実です。「喜び」にあずかれないものではありますが、聖霊によって知ることができますから、愛の聖霊に聞きましょう。

「悪しき者」の道が書かれています。表面的には「笑」っているようで、悪者が幸せのようにも見えますが、実は「心は痛み」「喜びが悲しみ」になってしまうものです。

自分は賢いと「自信」を持っている人こそ、実は「愚か」であることを忘れないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

